

<p>教材名</p> <p style="text-align: center;">カーリング 2020 (道川 Ver.)</p>		
<p>〈教材のねらい・使い方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 氷のストーンに触れて滑らせたり、ひもを引っ張って用具を操作することで氷を転がしたりして、カーリングゲームの楽しさを味わう。 カーリングのリンクと類似したカーリング・シート大小2種類を作成することで、実態に合わせてゲームに取り組むことができる。 		
<p>材料及び作成の工夫等</p>		
<p>〈材料〉</p> <p>リンクを描いた模造紙、透明なビニール袋、ブルーシート、キラキラテープ、氷</p> <p>〈作成の工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 氷が滑りやすくなるように、リンクを描いた模造紙の上に透明なビニール袋を被せたり、氷を滑らせる際に使用するスロープにビニールテープを張ったりした。 2種類のキラキラテープを細かくカットして水に混ぜて凍らせたことでチームごとの氷のストーンがより分かりやすくなった。 ベッド学習でも使用できるようにコンパクトなリンクも同時に作成。 		
<p>題材名と児童生徒の使用している様子等</p>		
<p>〈自立活動 合同学習(体育的活動)「カーリングをしよう」〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 本来のカーリングのルールを元に、児童生徒の実態に合わせた独自のルールを設定して取り組んだ。 氷に触れる機会が少ないため、その冷たさに驚く表情を見せたり、「(氷が) 冷たい」と話したりする等、冬のスポーツならではの感覚を味わうことができた。 チーム戦でゲームを進めたことでチームの仲間を意識することができ、自分の順番以外は友達の応援をしたり、教師と一緒に掛け声を発したりと、集団での活動をより楽しむことができた。 		
		